

vol.27

2015年7月

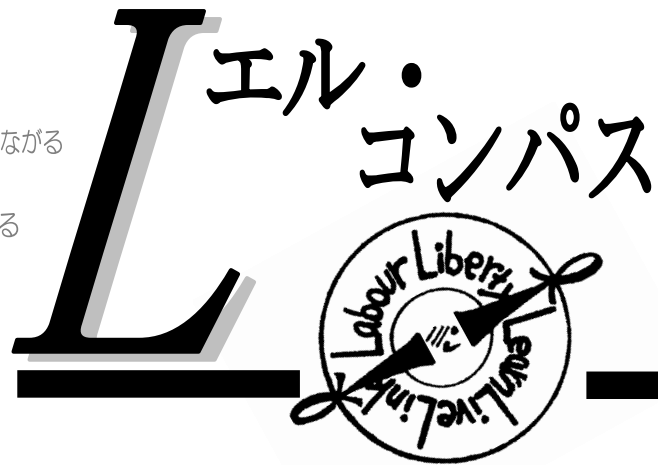
Link つながる

Live 生きる

Learn 学ぶ

Labour 労働

Liberty 自由



宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

宝塚市立男女共同参画センター



巻頭エッセイ「半世紀を超えた同窓生との旅」	1
特集「女性たちの生きづらさ SOS が聞こえますか」	
インタビュー 中野冬美さん	2
講座レポート 大川聡子さん「若者の現状」～若年母親の出産・育児から考える～	4
講座案内（7月～11月）	6
エル・フェスタのご案内	8

半世紀を超えた同窓生との旅

毎年5月の連休明けの2週末は、半世紀を超える旧友たちとの旅を恒例にしている。一つは大学時代のクラブ同期との山行。もう一つは中高同窓生との旅である。

大学時代、「山歩会」という同好会に所属していた。「さんぽかい」と読むが、内容はワンダーフォーゲルよりも登山部に近い山行をし、夏と秋の合宿は南アルプス、北アルプス、中央アルプスを1週間ぐらいかけて縦断した。

今年の行き先は、大菩薩嶺だったが、ここは特別な合宿の思い出深い場所である。

リーダーで迎えた三年生の合宿は、北部は甲斐駒ヶ岳、南部は光岳から塩見岳に合流するという南アルプス全山を対象にしたものだった。

大菩薩から見た日本百名山は、富士山、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳、北岳、間ノ岳、鳳凰三山、塩見岳、荒川岳、赤石岳、聖岳、御獄山、乗鞍岳、ハケ岳、金峰山、甲武信岳、丹沢山、雲取山の17座で豪華な展望は今も忘れられない。

中高は神戸市内にある私立に通った。ほとんどの同期生とは6年間学生生活を共にしたこともあって、卒業生約300名とは、名前と顔は一致しないながらも何かしら思い出がある。このうちの約8～12名と1年に一回、関東組と関西組が交互に幹事役を務め、1泊2日の旅を一緒にする。今年は関西組の2人が幹事をしてくれ、京都の葵祭りから始まる京都の旅日程を組んでくれた。

旧友との語らいは時尽きることなく終日続く。思い出話から友人たちの噂話、それぞれの近況報告から、家族の現況。孫自慢から親の介護の苦労話と話題は多岐に亘る。

毎年この時期になると、青春時代を共にした友との旧交を温める機会を持てる幸せを感じながら、この日のために体調管理に気をつけているという友人が例外でない年齢になって、来年もまた一人も欠けることなく再会できることを心から祈ってやまない。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長
田上 時子

SOS が聞こえますか

「格差社会」「ワーキングプア」「女性の貧困」「子どもの貧困」などのことばをよく目にするようになりました。シングルマザーの経済的困難や、日本の子どもの6人に1人が貧困であることなど、その状況がデータで明らかにされたり、新聞やテレビのニュースでクローズアップされたりして「女性の貧困」が可視化されたようになっています。しかし、私たちは本当に困難な状態にいる人たちのことをわかっているのでしょうか。身近にいるのに、気がついていないのかもしれませんが。気がついたとしても自分とは関係のないことにしているのではないのでしょうか。

今回、当センター「チャレンジ相談」の相談員で、「女性のための街かど相談室 ここ・からサロン」の共同代表である、中野冬美さんにお話をお聞きしました。

●女性の貧困 そのパターン

「女性の貧困」といってもいくつかのパターンがあって、シングルマザーの場合は、8割以上が働いているけれど貧困であるという「ワーキングプア」の典型であることが多いです。若年女性の場合は、正規の職業に就けず、仕事を転々とする、高学歴でありながらも全く仕事に就けない人たちがいます。そして高齢女性の場合、一人暮らしのまま年を経て蓄えもなく、年金も免除申請していたために支給額が減額されているというケースも多いです。

●「助けて」が言えない

シングルマザーの貧困については、何度もメディアなどで取り上げられてはいますが、社会的にはまだまだ認知されていません。児童扶養手当を例にとれば、非常にたくさんの金額をもらっていると思っている人がいますが、実際にはそんなことはありません。現状や制度の仕組みをよく知らないのに、受給している人に対してバッシングをする人が少なくありません。それは生活保護についても同様のことが言えます。

行政など、現場の方は一生懸命されているのですが、世間では「児童扶養手当や生活保護から脱却して自分で稼いで生活するのが自立である」というメッセージが非常に強く、「児童扶養手当や生活保護に頼ることはよくない」というような扱いをされています。どこかに相談したい、誰かに頼りたいけれどSOSを言っただけで人が亡くなるようなことはないけれど、人や社会との関係が切れて孤立する「社会的な貧困」の方が深刻で、その解決の糸口がないことをとても危惧しています。

●余裕を持った支援をしてほしい

「出来るだけ早く支援から脱却し、自活できるようにする」という支援の仕方が、結果的に本人を追いつめることになっています。当事者にとっては「頑張らなくちゃ」「自立しなくちゃ」と思うことがプレッシャーであり、できない自分を責めてしまう、そして一層落ち込んでしまう、という悪循環なんです。例えばDV被害者の場合は、立ち直るのにはものすごい時間がかかるのに、「もういいだろう、働けるだろう」と言われて、働き始めるとします。ところがPTSDの状態を抱えている場合が多く、「職場に大きな声を出す上司がいた」とか「前夫が乗っていた車に似た車を見た」だけで、体の震えが止まらなくなり、仕事ができなくなってしまふのです。短い期間の仕事から徐々に始めるとか、トレーニングの機会があるとか、「少しずつ、少しずつ、長い目でみて、余裕をもった支援をしてほしいです。」「就労、就労」と焦らされて仕事に就いた結果、セクハラにあって、自分に合っていない仕事で辞めてしまう、自信をなくす、それを繰り返して仕事内容がどんどん落ちていくのです。

●働くことよりも、まずは居場所を

人は仕事をすることで社会とのつながりができ、お金も稼げるし、自信が持てるようになるのですが、すべて自分の力で稼ぎ、どこにも頼らず生きていくことができる人はそう多くないと思います。「それができなくても全然悪くないんだよ」というメッセージを出したいです。まずは、社会の中で居場所を見つけることが一番です。仕事でなくても、何かで自己実現したり、人とコミュニケーションが出来たりすることが大事ではないのでしょうか。そしてサークルにつながったり、就労につながったりするのです。そういった環境や居場所を作ることがとても大切なことだと思っています。

「生活困窮者自立支援法」が2015年4月に施行されました。この制度が現場にそくし、生活に困窮した人が孤立しないような支援であってほしいものです。

インタビュー 中野 冬美さん

「女性のための街かど相談室 ここ・からサロン」共同代表、産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、ひとり親家庭やDV問題の相談員、大学でのセクハラ・パワハラ相談員などを務めている。

●「ここ・からサロン」でつながる

「ここ・からサロン」は、社会福祉士や、看護師、保健師など地域の公的な機関で働いたことがあるとか、それに関連する活動や仕事をしてきたなどの経歴を持つ6人のメンバーで始めました。支援が必要なのに、公的な機関には行かない、行ったとしても窓口で嫌な思いをしたなど、支援から外れた人たちの受け皿になるようなところを作りたいという思いで始め、今年で5年目になります。

高層の市営住宅の1階にあるのですが、近辺には生活保護を受給している人が少なくありません。そういう方はあまりお金を使えないし、行くところもない、病気などで外出しづらいなど、ずっと部屋に閉じこもっている方が多いです。高齢の一人暮らしで高層階に住んでいると、なかなか外に出なくなって孤立しやすいのです。そんな人たちが集うことができて「人とコミュニケーションをもつことは楽しいな」と思ってもらえる場所を作りたいと思いました。民間のボランティアベースでやっているのだから、なかなか情報発信しにくいのですが、口コミでサロンのことを知って、ここまで来られます。

※DV：ドメスティックバイオレンス 配偶者や恋人からの暴力

※PTSD：心的外傷後ストレス障害 衝撃的な出来事を経験した後に起こる心の障害

※セクハラ：セクシュアル・ハラスメント 性的嫌がらせ

※パワハラ：パワーハラスメント 権力を使った嫌がらせ（職場の地位や人間関係の優位性を背景に、相手に精神的・肉体的苦痛を与える行為）

相談の場でもあり、居場所でもあるのですが、ここでは訪れた人たちが手仕事をしたり、お茶を飲んだりしながら話をすることで、お互いに情報交換して輪が広がっています。その人たち自身の力でネットワークができていっています。

ワンコイン講座というのをいくつか開いているのですが、講師の多くはスタッフではなくて、ここに集う人たちです。韓国語や手話、点訳、フラダンスなど、みなさんいろいろな能力を持っていて、驚いています。福祉サービスというと、何か支援をしてもらうことになりませんが、ここは支援を受けるつもりで訪れた人が、人に教えている、それがエンパワメントになっているのか、すごく元気になっています。受講する人も安価で教えてもらえるし、ちょっとしたカルチャーセンターのようです。スタッフにとってもパワーがもらえる場所になっています。

人は何げない一言で元気になり、自信を持つことができるということを実感しています。そういった自信の基盤を作る場所となるサロンやNPO、機関や窓口がたくさんできればいいですね。

困っている人が「SOS と言える」そしてその「SOSを受け止められる」社会になってほしいです。

女性のための街かど相談室 ここ・からサロン

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 5-15-2-110 TEL/FAX：06-6646-3883

e-mail：coco.kara@nifty.com <http://cocokarasalon.cocolog-nifty.com/>

オープン時間：月・火・水・金・土 10:00～16:00

第4土曜日には、ガレージセール（手作り品や不用品など）を開催



情報・図書コーナーから おすすめの本



●はるまち

2013年9月創刊
生活保護を利用している人たち、過去に利用していた人たちの「顔が見える」ことを目指した雑誌です。

現在のところ流通ルートには乗っていませんが、一部のお店に置かれています。センターでは、閲覧のみしていただけます。



●バカだけど社会のことを考えてみた

雨宮処凛

青土社(2013/9)

「生きづらさ」や格差・貧困問題などを取材し、自ら

も活動してきた著者が3・11以降に考えてきたことが綴られています。生活保護、ジェンダー問題、原発、選挙などについて語られています。



●女性ホームレスとして生きる 貧困と排除の社会学

丸山里美

世界思想社
(2013/3)

これまでほとんど研究されることが

なかった女性ホームレス。彼女たちへインタビューや調査・研究によって女性が社会的に排除される過程を浮き彫りにします。

SOS が聞こえますか

一歩前に！私を動かす 男女共同参画講座（2015年6月3日～24日）第3回

「若者の現状」～若年母親の出産・育児から考える～

大川 聡子さん 大阪府立大学 地域保健学域 看護学類 准教授



大学卒業後、関東で保健師として勤務。乳幼児健診、健康相談等の母子保健業務に従事する中で、10代の母親（以下若年母親と表記）たちには、他の世代の母親たちとは異なる支援が必要であると気づき、その支援について包括的に幅広く学ぶため、関西の大学で社会学を専攻する。現在は保健師になる学生の教育に携わりながら、若年母親グループでのフィールドワークを行い、若年母親たちにはどんな支援が必要なのかを調査・研究している。

【講座レポート】

●若年母親の出産の背景には社会的不利な状況があるのでは？

これまでの研究では、若年妊娠は、予定外の希望しない妊娠であることが多く、本人がそれを受け入れることが困難であり、その後の生活に大きな社会的リスクを抱えていく可能性が高いとされています。10代の「できちゃった結婚」の割合や、離婚率、非嫡出子の割合などの数字が高いという統計結果も出ています。

※10代の妊娠数に対する出産割合：38.9%（2011年の10代の出産数、人工妊娠中絶件数から算出した値）

※結婚期間が妊娠期間より短い出生が嫡出第1子に占める出生構成割合（いわゆる「できちゃった結婚」の割合）：15～19歳で81.5%（人口動態統計特殊報告、2014）

※有配偶者人口に対する離婚率：19歳以下の妻の離婚率は82.7%で、全年齢中最も高い（人口動態統計 2010年の値）

※母の年齢別非嫡出子の割合：19歳以下が31.1%で全年齢中最も高い（人口動態統計特殊報告 2014年の値）

アメリカの場合「若年母親の人生の道筋は幼少期に始まり30歳まで持続する」、イギリスの場合「経済的機会の欠如や貧困が若年妊娠につながる要素である」など、若年母親の出産前の社会的不利な状況が明文化されていて、それを解消するために若年妊娠予防対策と同時に、出産した母親に対する支援が両義的に行われています。日本でも、若年出産の背景に社会的不利な状況があるのでは？と考え、若年母親たちへのインタビュー調査、若年母親グループでのフィールドワークを行っています。彼女たちに継続的に会って話を聞くことで、妊娠前におかれていた状況や妊娠から出産に至るまでの思いを類型化しました。

●若年母親の実態を踏まえた支援とは

彼女たちは、修学年数が短いため仕事の選択の幅が狭く、高校卒業の学歴を得られるような支援（通信制高校の活用など）や仕事に就くための専門的教育を身

につける環境や高校での職業教育の推進が必要だと感じています。若年母親たちの中には、小・中学校での基礎学力（漢字や計算など）が不足している方もおり、仕事はもちろん日常生活に困難を生じる場合があるので、義務教育を終えてからでも、生活に密着するような教育が受けられるような機会を設ける必要があると考えます。

そのためには子育てしながら教育を受け、就労ができるような環境（保育所など）を整備していく事が重要です。アメリカの若年母親のためのオルタナティブスクールでは、勉強だけでなく、母親に子どもの保育を1日1時間担当してもらい、賃金を支払っています。日本でも、こうした社会参加と経済的支援が同時に受けられるような、教育・就労・保育が賄いあえるような仕組みができないかと考えています。

社会的に不利な状況にある若年母親にとって、相談できる専門職は不可欠です。彼女たちは公的な「機関」や「窓口」を利用するというより、〇〇さんに相談する、といった「信頼できる人」を求めていく傾向があります。できれば同じ担当者が継続してサポートできるような仕組みを作ることがベストです。

地域の中では、「若年母親の生活実態がよくわからなくて、近寄りがたい」と思う人もおり、また「児童虐待のニュース」などの情報によって、若年母親に対する誤解や偏見も少なくありません。母親自身も、こうした偏見があることを察知し、日々プレッシャーを感じながら子育てをしています。

もし、周囲に子育てに励む若年母親がいいたら、「頑張ってるねん」と声を掛けてください。そうした声掛けが、10代だけでなくすべての母親が子育てしやすい地域づくりにつながると考えています。

若年母親の実態

(インタビュー・フィールドワークから)

妊娠前



アルバイトで家計を助け、学費も自分で賄っていた

基礎学力不足、勉強に興味を持てない。友だちとつるむ方が楽しい

子どもに関心を持ってない/持たない
家庭に育ち、相談する人がいない

何もすることがないから、結婚して子どもを欲しいと思っていた（高校卒業後の進路として、母親となる事を選択する）



出産

10代の場合、妊娠しても出産に至るのは4割弱。一方で、計画して妊娠される方もいます。

●計画された妊娠型

家族や友人など周りに若年出産した人がいて、出産・育児への理解とサポートがあり、本人もパートナーも結婚して自立したいと思った



●予期せぬ妊娠、望んだ出産型

「子どもは欲しくない」と思っていたが、「両親揃った家族への憧れ」「妊娠したら産むもの」という思いから出産を決意

●追い込まれ出産型

出産には消極的だったが、中絶可能な過数を過ぎ、受診後に出産を決意

育児

エレベータの設備がないアパートで、ベビーカーでの外出がたいへんだったり、家にお風呂がないなど、子育てにくい環境（経済的困難・住環境の不備）

高校を卒業していないので、子どもが大きくなっても仕事は選べないとあきらめている

年上の母親集団に入りにくい（若年母親は少数派）

子どもとの関わり方がわからず、子育てへのプレッシャーがある

児童虐待しているのではないかという周囲からの偏見



子どもには若年出産させたくないと感じ、教育費の割合が高くなる家庭もみられる。

子育てをする中で、家事が上達したり金銭感覚が身につく

母親役割を重視し、家族のペースを乱さずに付き合える友人（同じ立場のママ友など）を選んでいる

出産し母親となる中で、自分自身を大事にしなければ育児ができないということがわかった（産む前は自分のことがどうでもよかった）

保育所の役員を買って出る、夫や夫の家族と関係構築ができるよう配慮するなど、周囲との摩擦を解消するために努力している

インタビューによる若年母親たちの声は生々しくリアルで、講座の受講者からは、「若年母親への偏見があったことに気が付いた」「学校での性教育が必要だと思った」「誰もが学びたい時にいつでも学べる、産みたいときに産める社会になってほしい」「現実的・具体的事象の対処とともに、長期的な視野を持った包括的な支援の両方が必要だと思った」などの感想が寄せられました。

若年母親への支援が制度化されていくには、この年代に特化した生活実態を調査した統計データの蓄積も必要でしょう。

情報・図書コーナーからおすすめの本



●ひとり親家庭

赤石千衣子

岩波新書（2014/4）

ひとり親家庭の現状と社会の問題点を、当事者に寄り添い続けた著者が明確に提起します。10代シングルマザーや、高校中退に至った子どもたちの姿も伝えています。



●人を見捨てない国、スウェーデン

三瓶恵子

岩波ジュニア新書（2013/2）

スウェーデンでは、大学へは何度でも挑戦でき、大人になって、人生のどの段階でも、学校に戻る…。日本とのあまりの違いに驚きます。

中野さんや大川さんは、今まで社会制度の狭間に追い込まれて疎外されていた人たちや、世間の偏見によって沈黙するしかなかった人たちのSOSの声をすくいあげ、安心できる居場所を作ったり、何らかの支援につないだりされています。こういった個人や民間の活動には限界があり、社会システムの再構築が必要ですが、格差社会はますます深刻化していると感じます。私たちは自分たちの身近な世界を見るだけでなく、見えにくいことに対しても想像力を膨らませ、情報に振り回されず、世の中の動きを冷静に判断していきたいと思います。

講座案内

7月~11月

講座はすべて保育付き
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

女性セミナー

7月23日 8月6日(木曜日) 13:30~15:00 全2回

受付は締め切りました

エコノミスト浜矩子さんと考える 誰もが幸せになれる グローバル経済論

誰もが幸せな経済成長とは、多様性・平等の社会にこそあるのではないのでしょうか。奪い合いの時代が分かち合いの時代へ私たちの生き抜く術を一緒に考えましょう。

●対象：テーマに関心のある方 40人(2回とも参加できる方優先)

ほっとサロン

8月25日(火曜日) 13:30~15:30

7月1日(水)から受付

わたしに戻る 読書の時間

充実しているけど、家事に育児にあわただしい毎日常。時には「ママ」から「わたし」に戻る時間を過ごしたい！情報・図書コーナーにある図書や雑誌を読んでリフレッシュ！コミックもあります。

●対象：子育て中の女性 20人

ほっとサロン

9月8日(火曜日) 10:00~12:15

8月3日(月)から受付

わたしに戻る 映画の時間 「マダム・イン・ニューヨーク」(2012年 インド/134分)

ごく普通の主婦が、初めてのニューヨークで4週間の英会話学校に通うことを決意。少しの勇気が、彼女の世界を変えていく。それは私たちにも訪れる物語かもしれません。元気をもらえる映画です。

●対象：子育て中の女性 30人

起業・就労支援セミナー

9月29日~10月20日(火曜日) 10:00~12:00 全4回

8月3日(月)から受付

起業の底力をつけよう！

起業してみたけれど、うまく伸展しない、思ったほど利益が上がらない、知名度が上がらないなど、歩き出してみるとさまざまなスキルが必要なことがわかります。あなたの課題を見直しブラッシュアップする4週間です。

日時	内容	講師
9月29日	ビジネスアイデアをビジネスにする	宇田名保美さん(宇田マネジメント(株) 代表取締役)
10月6日	頼まれるための「伝わり方」を考える	前田めぐるさん(コピーライター・プランナー)
10月13日	法律に強くなる	増田正子さん(増田正子司法書士事務所代表)
10月20日	ネットに強くなる	文美月さん(リトルムーンインターナショナル(株) 副代表)

●対象：起業を考えている、または起業して間もない女性 30人(全回出席できる方・初めての方優先)

講座案内

7月~11月

講座はすべて保育付き
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

女性セミナー

9月11日・18日・25日（金曜日） 13:30~15:30

8月3日（月）から受付

暮らし慣習とジェンダー ～いろはうたから考える～

家庭、地域、職場、学校など暮らしの中にある伝統やしきたり・慣習といったものの中で、私たちは生きづらさを感じることはないでしょうか。女性史をひも解きながら、過去・現在・未来を考え、いろはかるたを作ってみます。

- 対象：テーマに関心のある女性 30人（全回出席できる方優先）
- 講師：源淳子さん（女性学研究者・関西大学人権問題研究室委嘱研究員）

こころとからだのリフレッシュセミナー

10月8日（木曜日） 10:00~12:00

9月1日（火）から受付

十七音字を楽しむ川柳講座

川柳は、五・七・五の十七音からなる短詩文芸です。ふと感じたこと、ゆれ動く心の風景を自由に表現する川柳。基本を知り、楽しく作りましょう。きっと世界が広がります。

- 対象：テーマに関心のある方 30人
- 講師：田村ひろ子さん（川柳作家・フリーアナウンサー・トークプランナー）

男女共同参画 川柳 を募集します

■応募締切：10月31日（土）

■応募資格：宝塚市民

身近な生活の中から「これっておかしい」と疑問や不満に思うこと、「こうなってほしい」という願いなどを「男女共同参画」の視点から、川柳にして笑いとばしてみませんか。入賞作品には賞品を進呈し、2015年12月5日（土）のセンターフェスティバルにて、表彰、発表、展示をします。

男性セミナー

10月31日・11月14日・11月28日（土曜日） 10:00~12:00 全3回

9月1日（火）から受付

～仕事も遊びも子育ても！～ カジダンという楽しみ方

「仕事も遊びも子育ても」、仕事のキャリアだけではない、ワーク・ライフ・バランスを考えた、今を楽しむ自分らしい生き方を見つけてみませんか？

日時	内容	講師
10月31日	引き出せ！家事場のパパチカラ ～仕事も遊びも子育ても！ 何でも楽しむ 楽家事のヒント～	山田亮さん （家事ジャーナリスト NPO法人 日本洗濯ソムリエ協会 理事）
11月14日	ある日、妻に先立たれたら？ 今日から出来る家事＝いえのこと	木本努さん （NPO法人京都いえのこと勉強会 理事長）
11月28日	自分を変える☆社会を変える‘カジダン’というパパの生き方 ～簡単 おいしい おにぎり作り～	桜井一宇さん （NPO法人ファザーリングジャパン関西 理事）

- 対象：テーマに関心のある男性 30人

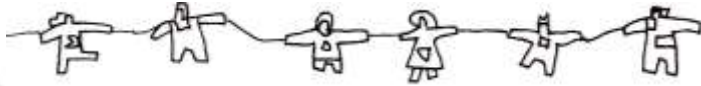
夏休み
だよ!

エル・フェスタ

8月22日(土) 10:00~16:00

おりがみ、工作、手縫い体験、紙芝居、マジック、バルーンアート、絵本の読み聞かせ、フリーマーケットなど、楽しいイベントが盛りだくさん! ホットドッグの販売や喫茶コーナーもあります

親子で楽しい1日を過ごしませんか!



一部有料・予約受付あり

詳しくはホームページをご覧ください

女性のための相談室

予約電話番号: 0797-86-4006

電話相談	毎週 月・火・木・金曜日 10:00~12:00/13:00~16:00 直通電話: 0797-86-3488	
面接相談	第2・4水曜日 第1・3・5土曜日 10:00~12:50 ※要予約・相談時間は 1人 50分	一時保育あり
法律相談	第1土曜日(原則) 14:00~17:00 <市民対象> ※要予約・相談時間は 1人 45分	一時保育あり
起業相談	第1・3水曜日 10:00~12:00 <市民優先> ※要予約・相談時間は 1人 60分	一時保育あり
キャリアアップ 相談	毎週月・金曜日(第4月曜を除く)・第4火曜日 10:00~11:50/13:00~14:50 第2金曜日: 15:00~16:50/18:00~19:50 第4火曜日: 11:00~11:50/13:00~14:50 ※要予約・相談時間は 1人 50分	第4火曜のみ一時保育あり
チャレンジ相談 (兵庫県出前チャレンジ 相談事業)	第1水曜日 11:00~13:50 ※要予約・相談時間は 1人 50分	一時保育あり

宝塚市立男女共同参画センター・エル

宝塚市指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

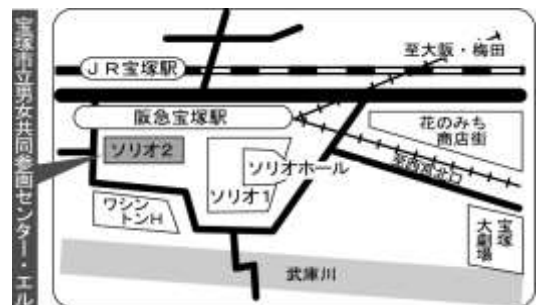
開館時間: 月曜日~土曜日 (9:00~21:00)

日曜日・祝日 (9:00~17:00)

休館日: 毎月第2日曜日・年末年始

〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL: 0797-86-4006 FAX: 0797-83-2424



メール: elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp

ホームページ: <http://www.takarazuka-ell.jp/>